

荒れ野の道

苦ししい経験について、どんなことが今までにあったか考えて、思いついたことを、つぎの空白に書いてください。

荒れ野の道

エジプトを出たあと、荒れ野の道でのつぶやきの

結果、モーセとほかの人たちは約束された国にはいることができず、荒れ野で死んでいき、ヨシユアと民の子孫たちがようやく約束された国にはいることができませんでした。

私たちはこの話を読んで、神の罰の恐ろしさを身にしみて感じます。神さまがなんとかしてくれと思っっている人も、これでいいのかとあらためて考えさせられます。

私たちは、申命記の記者たちのように、荒れ野の道を神さまがともいて直接導かれた恵の時としてと

らえるべきなのでしようか。申命記の記者の時代はすでにイスラエルが約束された土地にはいり、おまけに自分たちの王ができ、イスラエルの統一王国を建てることができましたが、その後、国が滅んでバビロニアで捕われの生活をしていた時なのです。

人々は自分たちの王の罪を嘆き、昔の日々を思い出して、なつかしく思っていました。民は約束の地にはいり、豊かな生活をすることによって、むしろ神さまからはなれてしまったと思い、たとえ苦しい状態であっても、神さまの導きのもとに歩んでいた荒れ

野の道の生活のほうがよかったと思うようになりました。

実際に苦しんでいる時はそんなことを考える余裕などありませんでしたが、後で振り返ってみれば苦しい経験も快いものとなったのです。私たちの人生はいつも試されていて、神さまは私たちに代わって戦われるわけではありません。

